

出張報告

報告日

令和7年8月20日

会 派 名	日本共産党柏崎市議員団
報告者氏名	持田 繁義
種 別	☐ 調査研究（ ☐ 行政視察） ☒ 研修会 ☐ 要請・陳情 ☐ 各種会議
用 務	原水爆禁止2025年世界大会ナガサキデー集会参加
日 時	令和7年8月6日（水） ～ 令和7年8月10日（日）
場 所 (会 場)	長崎市市民会館・体育館他
調査項目等	
概 要	8月6日（水） ●広島平和記念資料館視察・見学・・かつての『原爆資料館』から【広島平和記念資料館】へリニューアルされ、本館では8月6日の惨状、放射線による被害、魂の叫び、生きるをテーマに被爆の実相を観ることができる。東館では広島歩みが常設展示され、核兵器の危険性、原子爆弾の脅威をも展示され一目でその残虐性がわかる。 8月7日（木） ●長崎原爆資料館視察見学・・長崎原爆資料館に常駐されている「平和ガイド」さんから、一連の展示施設の説明を受けた。ファットマン・プルトニウム爆弾が長崎市上空500メートルで爆発させたことの意味。まさに実験であることを知らされた。 ●世界大会・長崎のつどい・・長崎市民会館体育館を会場に「被爆体験の継承と未来」として、被爆80年長崎のつどいを開催。被爆者の証言は■■■■さん。長崎の被爆者運動の歴史とたたかいについて、■■■■氏、■■■■氏、■■■■氏が登場された。 8月8日（金） ●世界大会・分科会「気候危機、エネルギーと原発」・・長崎大学片淵キャンパス経済学部講堂にて開催。講師には、環境活動家の■■■■氏による「海の中から地球が見れる」と題して、運営委員会共同代表の■■■■氏から「核兵器廃絶を目指して」と題して講義を受けた。 8月9日（土） ●ナガサキデー集会・・長崎市民会館体育館にて開催。3900人余が参集した。被爆者代表の■■■■氏のあいさつの後、エジプト大使、ベルギー労働党等の海外ゲスト発言。核兵器禁止条約に参加する日本の実現へ、草の根の運動交流が行われた。 ●浦上天主堂視察・見学・・約8500人のカトリック信徒が原爆の犠牲に。原爆がさく裂した午前11時2分、80年ぶりに復元された双塔の鐘を響かせた。国宝としての「浦上天主堂」。まさに、歴史文化都市長崎市を標榜する歴史建造物の象徴である。

所 感 等

●広島平和記念資料館・・・その日（6日）。天にもぬける青い空が広がり、上空から正確に街並みが視野に入る日。リトルボーイ、世界初の原子爆弾が投下され、一瞬に15万人の命を紛失。「半島人」と呼ばれた朝鮮人の存在を忘れてはならない。

●長崎原爆資料館・・・なぜ、2回目の原子爆弾の投下が必要だったのか。瞬時に7万人余の命を奪ったこと。航空写真が何枚も展示されているが、全ては米軍からの提供である。当時、日本には航空写真を撮影する技術はなかったこと。

●世界大会 長崎のつどい・・・被爆者の思いを次世代にどのように伝えるか。現在、被爆者の方々の平均年齢は86歳を超えているが、一緒に語り合い、考える機会を増やすことがとても大切なことを改めて痛感した。

●同分科会「気候危機、エネルギーと原発」・・・気候危機と平和の危機は同時進行している。しかしそれは、気候危機は人間の努力によって止められる。戦争も核兵器も人間の努力によって必ずなくすることができる。起源があることは変えられる。その立場で活動すること。

●ナガサキデー集会・・・核兵器廃絶への道筋を示すことの政治の責任。「人類の危機」紛争阻止へ日本の政府が果たすべき役割・責任は国際的、歴史的に問われていること。

●浦上天主堂視察・見学・・・思いを一つに、小さな積み重ねを一步ずつ前に進めることに、歴史を動かす大義があること。大きな出会いがあること。牽引車にならなければ。

